☆　がんばる多文化共生マネージャー取材応援事業採択事例　☆

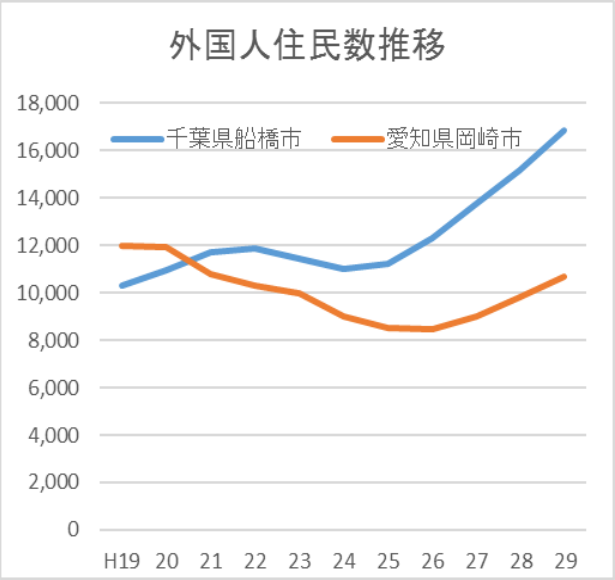
取材元タブマネ：長尾晴香さん（22 期）【Viva おかざき！！】
取材先タブマネ：髙橋伸行さん（３期）【船橋市役所】
取材のテーマ　：「多言語支援センター運営訓練の取材」

■■■統計データ等から見えること■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

外国籍住民は、岡崎市ではリーマンショック以降、長く減少傾向にあったが、直近の３年は増加傾向に転じた。これは主な産業が製造業である東海地域に多くみられる日系ブラジル人集住都市の特徴のひとつである。一方で、船橋市は目立った減少はなく、近年の増加傾向が著しい。

外国人住民比率は、岡崎市が 2.8%、船橋市が 2.6%となっており、全国平均からみると、ともに高い比率であり、総人口にそれなりの差はあるものの、大都市の近郊都市として、類似の状況がうかがえる。

こうしたことから、取材活動を通じて、当団体にとって参考となる部分が多々あるのではないかと思われた。



	船橋市	岡崎市
総人口	635,697人	386,595人
外国籍住民	16,832人	10,708人
比率	2.60%	2.80%
主な産業	卸売業・小売業	製造業
	千葉県	愛知県
外国人宿泊客数	2,941,986人／年	1,725,000人／年

■■■取材から見えてきたこと■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

１．外国人住民と日本人住民へ講座の同時開催の効果

船橋市では、日本人向けのサポーター養成講座として多言語支援センターの運営訓練を行い、外国人向けの講座として被災者の体験訓練を同日に開催する方法をとっていた。日本人側は、災害時の実践的な訓練となり、外国人側にはどのような支援を受けられる体験型で学ぶことができ、非常に有意義だと感じた。

２．参加者が自ら考え、失敗する場にするということ

船橋市の多言語支援センター運営訓練では、参加者が主体的に考えて行動できるようになることを主な目的のひとつとしている。訓練を通じて失敗を経験することで、緊急時の混乱している状態の中で指示待ちになるのではなく、行動する判断基準を養うように心がけているとのことだった。参加者に指示をして、決まったことを実施すればスムーズに訓練は行えるが、それでは訓練のための訓練になってしまう。参加者が疑問を感じたり戸惑うことで、実際の災害時に何を考え、優先させなければいけないかを考えてもらうことが訓練の大切な目的であると感じた。

■■■今後取り組みたいこと■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

１．行政との連携

当団体では、外国人住民向けに講座を毎年行っているが、行政に対して講座の講師としての協力依頼はしているものの、共同開催などには至っていない。しかし、今後も災害時・緊急時に外国人住民が支援者として活躍できる土壌をつくっていくためには、行政と連携をした訓練を行う機会をつくっていくことが重要だと再認識した。岡崎市でも災害時通訳ボランティアの養成講座を行っており、連携を取った訓練の実施ができないか打診をしてみたいと思う。

２．外国人キーパーソンの活用

現在までは、参加者募集をして講座を実施してきたが、こちらから外国人キーパーソンに参加をお願いしたり、もう一歩踏み込んだ巻き込み方をしていかなければいけないと感じた。講座への参加という形に囚われず、企画・運営会議に関わってもらうなど、地域の外国人住民により積極的に関わってもらえるような運営体制に変えていきたいと思った。

３．ネットワーク化することのメリット

船橋市が 10 年以上も講座を継続して開催していて感じていること、大切にしている支援を学ぶことができ、当団体の活動をステップアップする上で非常に重要なポイントを学ぶことができた。緊急時・災害時の外国人住民の支援や、サポーターの養成講座で抱える課題には共通点が多く、地域が違っても共有できる部分は多いと感じた。

また、災害時には「近隣地域は同じように被災をするので、被災をしていない他地域に支援をお願いするしかない」という、当たり前の事実を改めて認識し、距離を越えてネットワークを持ち、緊急時に助け合える関係性を持つことが必要であると感じた。

■■■お国自慢■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

★「アンデルセン公園」はアジアで人気第 10 位！（船橋市）

（http://www.park-funabashi.or.jp/and/）

船橋市は空港や東京都内からのアクセスもよく、外国人観光客にとっても魅力的な観光地になっているようだ。中でも「ふなばしアンデルセン公園」は、2015 年には世界最大の旅行口コミサイト「トリップアドバイザー」で人気のテーマパークランキングで、日本国内で第３位、アジアで第 10 位にランクインするなど、海外旅行客にも大人気だという。

船橋市は、童話作家アンデルセン生誕の地として有名なデンマーク・オーデンセ市と姉妹都市であり、公園内にはオーデンセ市の風景を思わせる建物や風車がある。約 30.7ha の敷地内には、ワンパク王国、メルヘンの丘、子ども美術館、自然体験、花の城の５つのゾーンから構成され、創作体験なども楽しめるという。日本人も外国人も、国籍に関係なく楽しめる場所があるということは、船橋市が多様な人が交流できる多文化共生のまちづくりに貢献しているのではないかと思う。

★歴史と伝統に触れられる「おかざき匠の会」（岡崎市）

（http://www.okazakitakuminokai.jp/）

岡崎市には、石屋や三河仏壇、花火、和ろうそく、矢、太鼓、三河木綿、八丁味噌など、３７種４９名の職人・作家などが集う「匠の会」が存在する。岡崎の歴史ある伝統を守りながら、体験教室なども少人数から受け入れてくれ、日本人だけでなく外国人も気軽に伝統に触れる機会になっている。

当団体でも周年記念イベントで、和太鼓の演奏を依頼し、参加者にも太鼓を演奏する時間も設けてくれ、特に外国人参加者から大好評であった。他団体でも和ろうそくの絵付け体験会を開催したり、匠の会が核となりながら日本の歴史や伝統文化を外国人住民が知り、世界に発信する機会に繋がっている。